



The Tokyo Branch Letter No.69 RSCDS東京ランチ
東京ランチレター December 2005

A Newsletter of the Tokyo Branch of the Royal Scottish Country Dance Society

Editor: Tom Toriyama, 6-9-21, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki 215-0017 Tel/Fax 044-988-7773

New Year Dance 2006

恒例の新春ダンス会 New Year Dance 2006 をつぎのとおり開催します。大勢の会員のご参加をお待ちしております。

2006年1月9日(月・祝) 1.30-4.30
東京・赤羽会館(JR赤羽駅東口3分)
¥1,000 (RSCDS 非会員¥1,200)
音楽 小海弘子・菊池孝・村山由美子
MC 鈴木百代・小山かおる

Happy Returns	Misc 2
The Wild Geese	24-3
The Dundee Whaler	Ormskirk
Shinkansen	Tokyo 20th
Tribute to the Borders	Lft-31
The Birks of Invermay	16-2
Catch the Wind	45-5
S-Locomotion	41-8
Mrs MacLeod	6-11
Miss Gibson's Strathspey	Lft-18
The 20th Anniversary Jig	Tokyo 20th
The Braes of Tulliemet	7-12
Starlight	44-1
The Dream Catcher	45-9
The Reel of the Royal Scots	Lft-27
Ex. The Montgomeries' Rant	10-1

東京ランチ Weekend School 2006

第18回 Weekend School

2006年2月18日(土) 1pm-19日(日) 3pm
石川島研修センター(神奈川県綾瀬市)
講師 クレメント篤子・小山芳樹
音楽 小海弘子ほか
定員 80名(先着順受付)

ティーチャーズ・スキル・コース

2006年2月17日(金) 1pm-18日(土) 0pm
石川島研修センター
講師 クレメント篤子 音楽 小海弘子
定員 20名(先着順受付)

募集要領・参加費用は近々中にお知らせします■

東京ランチ・クラス

(会場はそのつど変わります。毎月のクラス案内をご参照、または担当にお問合わせください)

ビギナーズ・クラス

12月12日(月)・26日(月) 1.30-4.30
以降毎月第2・第4月曜日
千代田区総合体育館5F
講師 トム鳥山・五十嵐成子
¥600
担当 兼松千奈美 03-3752-6374

11月から半年のレッスン中

11月から新たな半年コースが始まっています。いまならまだ追いつくことができます。この機会にカントリー・ダンスを楽しみたい方にぜひご参加をおすすめください。

ステップ・ダンス・クラス

12月10日(土) 9-9.50 講師 川崎千佳
千代田区総合体育館5F
3回連続で ¥1,000
担当 増田静子 043-232-2257

インターミディエイト土曜クラス

12月10日(土) 10-12 講師 小山かおる
千代田区総合体育館5F
1月講師 西森典子・石田由美
¥500
担当 増田静子 043-232-2257

インターミディエイト月曜クラス

12月5日(月) 1.30-4.00 講師 神倉那智子
千代田区総合体育館5F
1月は年始のため休会
¥600
担当 境 雅子 047-368-3873

アドバンスド・クラス

12月3日(土) 6.20-8.45 講師 若松陽子
童夢館(秋葉原)
1・2月は講師 境雅子
¥600
担当 大井富佐子 03-3330-4676■

Book 45 ダンス講習会

ことしも新ブックのダンス講習会が2カ所で行なわれ、参加者はそれぞれの確かなポイント指摘を受けながら、ダンシングを楽しみました。

東京会場 8月28日(日) 港区社会勤労福祉会館
100名参加。ピアノ村上美枝子。



東京会場のもよう

川崎会場 10月10日(月) 川崎市高津区民館
45名参加。ピアノ市川洋子。

Book 45のダンスは、それぞれ変化があつてピュラーになるものが多いだろう、という参加者の感想です■

マガジン、本部から直送

従来のブリティンに代わる RSCDS マガジン、*Scottish Country Dancer* が発行され、本部から会員に直送されました。9月末、突然とどいた外国郵便にびっくりした会員も多かったようです。これには本部と支部の連携作業があり、とくに支部セクレタリのなみなみでない労力がありました。セクレタリ中田多鶴子は、

「昨年初秋、本部から会員の住所を知らせよ、という要請があつた。Excel 様式が示され、これに氏名と住所を記入して1カ月以内に返送してくれとのことだつた。会員住所情報は漢字で把握していたため、会員に読み方(フリガナ)を知らせてほしいとはがき同封で依頼し、本部には半年ほど時間をくれと頼んだ。はがきの回収は100%にならなかつたが、回収ぶんのみをローマ字化して本部に送った」

「新年度会員の登録開始時期になつたので、申込書に住所・氏名にフリガナ記入をお願いした。本部登録会員の住所・氏名を、吉澤敦子さんとローマ字化し読み合わせのあと、本部に電子メールで送った」

東京支部から本部登録した会員で、RSCDS マガジンを受け取っていない方は、セクレタリ中田多鶴子までご連絡を■

Exams Tokyo 2006

現在までに決まっている要綱は下記のとおりです。会員のみなさんのご協力をお願いいたします。

項目	予定人員	内 容	予 定 日	場 所	チューター
Unit-1	約10名	試験 答案英訳	2/18 選定中	石川島研修センター 選定中	なし
(Unit-1 合格者が6名未満の場合、Unit-2 および Unit-3 は行ないません)					
Unit-2		トレーニング 試験	3/18-19, 3/25-26, 4/15-16, 4/22-23 4/29	石川島研修センター 東京都内	小山芳樹
Unit-3		トレーニング 試験	4/29-5/3 5/3	選定中 東京都内	日本人チューター (交渉中)
Full Certificate	約20名	筆記試験 答案英訳 トレーニング ダンシング試験 ティーチング試験	4/1 4/1-2 4/29-5/3 5/5 5/5-7	東京都内 選定中 富士五湖方面 東京都内 東京都内	なし Bruce Frazer & Jean Martin

三役の任期は2年

- 規約検討諮問委員会 -

年次総会でランチ規約、とくに三役の任期の解釈について別途諮問委員会を設け、明確にすることが決まりました。9月11日、つぎのメンバーによる委員会が開かれ、三役の任期は2年、が明らかになりました。

諮問委員会メンバー：小幡正明・吉澤敦子・鳥山豊喜・五十嵐成子

設立時の考え方—特定の人に長期間負担がかかるのを避けるため、かつ多くの人に委員を経験してもらうため、任期は2年とし、「再選されない」とした。規約本文で「2年」とすべきだったが、当時は本部モデル規約をいじるべきでないとの認識があり、ランチ細則で条文化した。

条文にいくらか不備があり、20年たつと当初の考え方と異なる解釈も生じるようになった。

今後の方針—「三役の任期は2年とし、再選されない」を細則でなく本文に盛り込む。かつ現状に合わせ、ごくわずかの条文整理を行なう。したがって2006年年次総会に規約改定を提案し、総会承認後、本部承認を求める■

ミス・ギブソン逝去

1975-1988年にソサエティ・セクレタリを務められ、東京ランチ設立時にたいへんお世話になったMiss Muriel Gibsonが、10月22日に亡くなられた。新聞発表によれば、生粋のスコットランド民族主義者で、あと1ヶ月で満93歳になるところだったという。ご冥福を祈る■

RSCDS 東京支部

チェアマン 五十嵐成子

T/F 048-445-1527

セクレタリ 中田多鶴子 T/F 0297-64-9486

〒301-0855 龍ヶ崎市藤ヶ丘 5-7-5

Email: wbnsd292@ybb.ne.jp

トレジャラ 松村 茂 T/F 047-371-9054

委員会メンバー 大井富佐子 03-3330-4676

兼松千奈美 03-3752-6374

境 雅子 047-368-3873

トム鳥山 044-988-7773

増田静子 043-232-2257

ホームページ www.ne.jp/asahi/tokyo/branch/

同担当 吉澤敦子 T/F 0298-41-0767■

大盛況のクレメントさんボール



1975年以来の友人たちと

10月16日(日)、東京のホテル・フロラシオン青山において、ビル&篤子クレメントさん主催による「ビル・クレメント訪日30周年記念ボール」が行なわれました。日本全国から330人をこえるダンサーが集まり、キース・スミス、小海弘子、ビル・クレメント、フィドラー有志によるデュオないしアンサンブル演奏でたいへん盛り上がりしました。

「ミス・ミリガンから、日本に行ってほしいと依頼されたとき、ダンフリーズに家を新築中だった。3週間収入が途絶えるのは痛かったので、はじめ私は辞退した。3度目の依頼を受け、恐る恐る勤務先の学校に休暇願いを出したらすんなり通り、しかもその間の給料もくれるというのだ。ほっとしたよ」—ビルさんによる1975年当時のエピソードです。

わがランチからは生花を贈呈しましたが、ランチ、グループの粋にとられず、たくさんの方々が会したことは、日本SCDの発展においてクレメントさんご夫妻がいかに努力したかの現れであり、ご夫妻もたいへん喜んでいました■

サマースクール2006

2006年は75回目(75周年は誤り)を迎えます。

第1週	7月16日 - 23日
第2週	7月23日 - 30日
第3週	7月30日 - 8月6日
第4週	8月6日 - 13日

申込書は2006年1月から入手可能です。お問合わせはランチ・セクレタリに、または本部インターネットで■

2006年ランチ行事予定

- 1月9日 New Year Dance 2006
2月17-18日 ティーチャー研修会 (同下)
2月18-19日 合宿 (石川島研修センター)
いずれも講師クレメント
篤子・ピアノ小海弘子
4月29日 World Day of Dance
2月-5月 指導者資格試験 (別項参照)

運営委員会報告

9月3日

(1) Book 45 講習会

- 第1回 8/28 港区社会教育会館 89名参加の
反省
第2回 10/10 高津区民館の準備状況点
検

(2) New Year Dance 2006 1月9日 (月・祝)

赤羽会館。ミュージシャン、MC候補、プロ
グラムを内定。

(3) ランチ・クラスの講師候補を内定。日取 りについて講師の了承を得ることとする。

(4) 試験実行委員会委員から今までの報告を聞 く。9月17日の本部委員会で日程が決まる予 定。Unit-1試験は出題数・内容からいって日 本人の合格は困難なので、易しくするよう試 験実行委員会から要望書を本部に出す。

(5) ランチレターNo.68は9月14日発送作業を 行なう。

(6) 規約解釈委員会、クレメント氏ボール、ラン チ賞について意見交換。

(7) ランチに連絡なく 2005年3月に東京で Unit-1試験を受験し合格した会員がおり、他 の会員から試験が公正に行なわれたかどう かをランチとして確認してほしいとの要 請がある。本部および本人から事情を聞くこ とにする。

10月1日

(1) 2月合宿 New Year Dance 2006 15ダンスか らなるプログラムを決めた。

(2) 2月合宿の募集人員数を決め、12月のクラ ス案内時に申込書を同封し、募集期間は12 月10日から12月20日の10日間とする。テ ィーチャー研修会のテーマについて意見交 換。一般合宿の講師クレメント篤子さんのほ かに別の講師候補を推薦。

(3) 2006年度運営委員について意見交換。

(4) ランチ・ショップの受注状況について報 告あり。マニュアル受注63冊、マクナブ・ ビデオ49本など。ビデオに音声のない不良 品混入の恐れあり、本部に点検後のビデオを 送るよう申し入れる。全RSCDS商品の購入 希望は次号ランチレターで受付ける。

ランチ関連の写真を求む

ランチ創立20周年記念誌の発行におい
て、運営委員会は資料となる写真の量と維持
不十分を痛感しました。今後活動記録作成に
あたり、写真の保管・維持・引継ぎが不可欠で
す。

前号でもお願いしましたが、いままでの活動
に関する写真をお持ちのかたは、どんな写真で
も結構ですから、どうかセクレタリ中田多鶴子あ
てお送りいただきたく、お願いいたします。

(5) 東京で Unit-1 試験を受験し合格した会員 との事情聴取結果報告あり。公正に行なわれ たとの本人明言を受け入れることとした。

(6) プレーヤーなどのランチ器材は故松橋順 子さん宅に同家の厚意で置かせてもらって いるが、同家の事情もあり10月いっぱい 器材をそのつと持ち帰ることになった。その ため器材不足が生じるようであれば、新規に 補充する必要がある。

これからの委員会日程

12月3日 (土)

1月7日 (土)

ご意見ご感想など、委員会は歓迎していま
す。各委員にどしどしお寄せください■

埼玉ランチ5周年行事

New Year Ball 2006

2006.1.22 (日) 1-5pm

¥2,000 (申込み要)

フラルガーデン春日部

(春日部駅西口13分)

Week-end School

2006.3.4 (土)-5(日)

県民活動センター(伊奈町)

講師 Peter & Pat Clark

特別講習会

2006.3.7 (火) 1-4pm 会場確保中

講師 Peter & Pat Clark

以上お問合わせは 埼玉ランチ・セクレタリ
藤浪公子 Tel/Fax 0480-22-3708■

アンジェ・クラブの紹介

(春日 寛司)

私共、昨年よりフランスにてダンスグループを始めましたが、最近日本に一時帰国した際ダンスパーティー等でダンサーの方からフランスで踊ってみたい、私共のグループへ行ってみてみたいとの問い合わせが度々あってフランスを初めヨーロッパで踊ってみたいという方がかなりおられるやに感じました。それで誠に僭越ですが私共のグループを紹介いたします。

“CLUB DE DANSE ECOSSAISE D’ANJOU”
RSCDS AFFILIATED GROUP
“クラブ ドゥ ダンスエコセズ ダンジュ”

代表者：ケン 春日
セクレテール：ノコ 春日
場所：6 ALLEE ST. SAENS 49240 AVRILLE,
FRANCE
TEL/FAX : 33-2-41692461
e-mail: kennoko@aol.com

パリモンパルナス駅から TGV (汽車) で1時間半アンジェ駅下車、車で10分、連絡頂ければお迎えに上がります、宿泊設備あり、ロワールのお城に囲まれた美しい所です。

原則的に毎水曜日 19:30-22:00 クラス、但し日本の皆様には事前に連絡頂ければクラス何時でも開催します。フランス人とフランス語のコールで楽しく踊りましょう。

日本連絡先 〒191-0043 日野市平山 3-35-3
TEL/FAX: 042-593-9079■

Fifty Years On

-50年前のサマースクール-

(アリストター・マクファジェン)

わたしがセント・アンドルーズを初めて見たのは、1955年8月、RSCDS サマースクールに行くため乗った列車が町に近づくときだった。(Editor注. 1968年までルーカス=セント・アンドルーズ=カーコディ間に鉄道が通っていた)。わたしはまだ十代で、いくらか不安を抱えてこの冒険に乗り出したのである。だが心配無用だった。ロンドンから団体でやってきた連中も含めて、常連は新人を大歓迎し、身内のように扱ってくれたのだ。わたしへの気配りと、そのとき得たたくさんの友人(いまの私のように熱烈なサマースクール信者だった)に対する感謝の念をいまでも持ち続けている。

グラスゴーでSCDSが発足してから4年後、サマースクールは1927年にこの町に落ち着き、1955

年には年間行事としてすでに定着していた。共同設立者のイザベル・スチュワートとジーン・ミリガンは、第1回サマースクールを経験して、ソサエティ設立が間違っていなかったと確信した。その場所にセント・アンドルーズを選定したのはたいへんよかった。エジンバラで開催された年と、第2次大戦による休止期間6年を除き、サマースクールは1927年以来、ユニバシティ・ホールをベースに毎年開かれている。ソサエティが世界的な組織に拡大したいま、インタナショナル・ファミリーの会員の多くは、セント・アンドルーズをアラビアのメッカのように考えている。

当時、サマースクールは1927年から1978年までミス・ミリガンが校長をつとめていた。新人として、わたしはすぐにスクールの決まりや慣習に慣れた。ラムズデン棟が宿舎になったのは1960年代だが、それ以前はユニバシティ・ホールぜんぶが女性宿舎で、あつかましい男性は別として、ベッドルームのある2、3階に関係者以外の立入りは許されなかった。玄関の錠は早い時刻にロックされてしまい、若い女性にはこれが大問題だった。というのは、女性連中はわれわれと町中のピーター・カフェで過ごしたかったし、ラムス・フェアや、ときにはスイミングで遅い時間になることがあったのである。このようなときには、前もって帰館時刻を告げておく必要があった。うれしいことに、男性やほかの女性が泊まっているセント・レギュラス・ホールやヘバーン・ホールのきまりはそれほどきつくなかった。なんと無邪気で楽しい年頃だったことか。ケイリの準備でみな夢中だった。ソフトドリンクを準備するため、セント・レギュラスのキッチンをフルに使ったことがあるし、ことばに長けたロンドンの女性なんかは、浴室に追いやられたことがある(おしゃべりがうるさいので)。かの女はそこでケイリのシナリオを考えていたのだと思う。

朝はクラスで始まる。有能なティーチャーの指導はすばらしかったし、わたしは先生たちから多くを学んだ。ミス・ミリガンは、ヤンガーホールでゆったりとしたペースで大人数のクラスを指導し、しかも何事も見逃さない目を持っていた。ふとところに飛び込んでくる人に対して、かの女はだれにでも寛容だった。だが、前夜の遊びすぎで、ボーッとしてかの女のダンス指導にうまく反応できない生徒たちには辛らつなあてこすりを言っていた。

1950年代、男性生徒の呼びものは第2時限目のハイランド・ステップ・クラスだった。アバディーンの名高いダンサーでティーチャーのボビー・ワトソンが指導していたのである。かれの授業はいつも愉快だったが、われわれもへとへとになるまで動かされた。午前のハイランド・クラス

と、ドリル・ホールの滑らかな屋根に陽が傾くころの1時間ノンストップ・ダンシングで、汗を流そうという男たちでバスルームは満杯だったが、それでもみな翌朝の脚さばきは満足の行くものだった。気分を変えるため、ランチに行く前、ケート・バーで飲む1杯がいつものルートだった。

どんな天気であろうと、50年前はみなビーチで午後を過ごしたものだ。グループごとにいつもの場所に陣取り、そして常に *Eightsome Reel* の音楽を練習するパイプの音がひびいていた。まだ小僧っ子だったわたしは、アフタヌーン・ティーをとりにホールまで駆け足をやらされた。そのころ車はまだ少なく、アフタヌーン・ティーは伝統を保っていて、サンドイッチ、スコーンとケーキだった。飲み物はビーチのキオスクでティーを買い、大きなポットに入れて運んだ。

1956年の2回目のサマースクールは強く心に残っている。記録映画“*Scotland Dances*” (いまは収蔵記録品になっている) で端役の1人に指名されたのである。これは RSCDS とスコットランド映画社との合作で、大学の芝生運動場で撮影を監督したのはミス・ミリガンだった。秋になって、わたしの映画デビューをぜひ見たいという家族・友人を引き連れ、エジンバラの映画館で真っ先に映画を見た。上映が終わったとき、みんなの、そしてわたしの落胆を想像してほしい。わたしのシーンはフィルム編集の段階でカットされていたのだ。

1,2回の欠席はあるものの、わたしは1955年以来サマースクールにずっと参加している。スクールの指導スタッフの一員になり、校長も4年間つとめた。その機会が与えられたこと、そしていまに続く友愛関係をたいへんありがたいと思っている。参加者の要望にあわせ、近年新しい着想や変化がサマースクールに取り入れられているが、必然といえる。ことしも参加者が増えたと聞いて (33カ国から約800人)、うれしく思っている。 (“*Fifty Years On*” by Alastair MacFadyen, from *The Reel No.253*, Sep – Nov 2005, by the courtesy of the RSCDS London and Dr MacFadyen) ■

マニュアル第2版 (ローズマリ・クーブ、バンクーバー支部)

新マニュアルは「なるほど」という以上の重みを持っている。

第6章「Formations」は最新のものを含み、きちんとした説明はティーチャーにとって不可欠な材料になっている。*Petronella turn* がはじめて取り込まれ、*petronella in tandem*, *corners pass and turn*, *reels of three in tandem*, *set and link for three*, *chain and turn*, *spiral*, *swirl*, *tourbillon* も入っている。

第6章の目次は初版よりもすっきりし、*chain formations* が一つにまとめられたのは評価できる。*Reels of three* の説明に余分なところがあると思う。*Turn corners and partner* のあとの *reel* は、*set to and turn corners* の *reel* とほぼ同じであるし、*reels following set to corners* は *reels following set to corners and partner* で十分である。

対照的に、*reel of three across the dance* の説明は“*The Sailor*”のような *first couple* が真ん中にいる場合をベイシックとしているが、*dancing couple* が *sides* にいて *left shoulder* でカットしながら入る *reel* についてはなにも書かれていない。このパターンは *corners* が内側に動くというように、別のフィーリングをもっており、新旧のダンスにフルまたはハーフで数多く含まれているため、ここに述べられるべきと思う。

有用な文章は第2章の「RSCDS」の歴史と現行の組織である。現組織の概略が記されているが、ソサエティ初期に、もともとのトラディショナル・ダンスと関連してステップとテクニックをどのように標準化していったかのプロセスには触れていない。SCDの要素を記述した第3章には、いろいろな *Tulloch turn* の詳細が図とともに書かれている。

第4章「音楽」は、構成・内容とも特筆に価する。楽器のセクションに続いて、19世紀・20世紀初期の音楽出版物の記述がある。各作曲者の業績は充実し、だれの作品がどのダンスのリード・チューンになっているかも含まれている。音楽の速さは、指導ヒント中ではなく、別項になった。小さく、しかも重要な変更はここにもあり、ストラスペイ 32小節の平均的演奏時間は64秒となった (初版では60秒)。

第7章「各ダンスの注記」は *Book 45* を含み、第8章のタイトル「ヒント」は「さらなる助言」に変わった。付録の RSCDS 出版物の最新版日付のリストもありがたい。索引も充実した。マニュアルの語源はラテン語の「手」からきている。ハンディではないが、このマニュアルは熱心な会員に必需のものである ■

リカップで踊る

(デイブ・ウィルソン、米ポートランド支部)

(原 Editor 注. ダンスのリカップ (アメリカ、カナダではブリーフィングという) の技量を高めるにはどんなことをしたらよいか、TACTALK はティーチャーにいろいろな記事を提供してきた。けれども、リカップを聞くほうも、勉強してその能力を向上してもらう必要がある。つぎの記事はデビッド・ウィルソンによるもので、かれは北カリフォルニアに住み、世界各地で踊った経験をもっている。記事はポートランド支部の機関紙ギリ・ガゼット Ghillie Gazette に載ったものである。)

リカップを聞いて踊るといのは、たいへん役立つ能力である。リカップだけで皆さんはダンスを楽しむことができる。

リカップには二つの役割がある。

* 踊ったことのあるダンスを思い出させる。

* 踊ったことのないダンスをすぐに理解させる。

第一の役割は前者であるが、意欲ある経験ダンサーは後者も得ることができる。

わたしたちはダンスを習うのに、好みのスタイルをもっている。見ればわかるという人もいるし、聞くだけでいい、あるいは動くのが必要という人もいる。クラスにおいてグッド・ティーチャーはこの三つのすべてで指導する。リカップは言葉によるコミュニケーションであり、われわれダンサーは言葉だけで指導されることはないが、ダンシング、とくにダンス会においてリカップは大いに役立つ解説方法である。このやり方でダンスを効果的に覚えるのはどうしたらいいか? ガイドラインはつぎのとおりである。

1) ダンスではなく、ダンシングを習う。フットワークと上半身のテクニークに加えて、フィギュア (フォーメーション) を習う。フィギュアを一つのまとまりとして習う。指導者、MC が **Rights and lefts** といったら、あなたはそれを完全に自分のものにして受けとめること。ほとんどのダンスには二つか三つのスタンダード・フィギュアがあり、あなたが注力すべきフィギュアは、だぶんそのうちの一つである。集中力を発揮すべきフィギュアに集中すること。

2) 言葉によるメッセージを、あなたが好むやり方で動きに移しかえ、理解すること。目で見ると動きのほうが得意ならば、人の動くさまを想像すること。運動のほうを好むならば、自分がどう動くかを考えること。

(両手で動きを表現するのは大いに役立つ。ダンサーの理解を助け、全員にもさらに徹底する

ため、黒板やスケッチ用紙に動きを書き留めるよう、ティーチャーに頼むこと)。

3) パートナーとの、そしてセットのダンサーとのアイ・コンタクトを保つこと。たがいに動きを思い出すことができる。わからなくなったら、遠慮なく「つぎはなに? **What's next?**」と聞くこと。

4) 動きをミスしたら、それをやり過ぎ、つぎのフィギュアの位置につくことがベストである。**Hands across** に入れなかったら、追いかけて入ろうとしないこと。**Hands back** まで待つか、つぎのフィギュアの位置で待つこと。**Turn and cast** で **turn** をミスしたら **cast** だけを行なうこと。(バスに乗り遅れたら、先回りしてつぎの停留所でそのバスを待つこと。バスを追いかけない)。もしもセットを壊してしまったら、笑いながらつぎのスタートに備えること。

5) リカップだけではトラブルを起こすダンスがあることを、あなた自身がよく分かっている必要はない。「慎重は勇気の一部」を知り、そのダンスでは見るほうにまわること。そういうダンスをどこで見分けるか? MC が「このダンスは経験者向きです」といったダンスである。もしあなたが「ドゥルーリ **Drewry**」という言葉聞いたのなら、そのダンスは要注意である。4カップル・セットをつくるのに1カップル不足していて、どうしても最後尾のカップルにならざるを得ないとしたら、ほんとうに自信がないことをみんなに告げること。みんなが **OK** したら、「助けてね」といえばあなたは楽しく踊ることができる。そういった経験は、あなたの心にすごいことをやったんだという思いを焼きつけるだろう。

6) ともに踊る熟練ダンサーを観察する。上手なダンサーのテクニークに注目し分析すれば、大いに勉強することができる。あまり上手でないカップルは、ティーチャーに頼んでトップでウォスルーをやらせてもらい、実際のダンシングでは熟練カップルに変わってもらうこと。耳と動作の勉強をさらに補強することができる。

ダンサーが完全に知っていなければならないフィギュアはなにか? ほぼぜんぶのフィギュアであり、優先順位はない。つぎのフィギュアは、ボストン支部が表したリストに修正を加えたものである。

ビギナーズ・フィギュア

Turn with right, left or both hands in two or four bars
Down the middle and up, leading or following
Casting down or up
Hands round and Hands across

Rights and Lefts
Allemande, two or three couples
Poussette, quick time
Turn corners and partner
Reels of three, 6 or 8 bars, right or left shoulders
Cross over reels
Reels of four
Promenade, two or three couples
Advance and retire
Back to back
Grand chain
Ladies' chain
Figure of eight, half and full
Balance in line
Petronella turns
Set to and turn corners
Set to corners

インタミディエイト/アドバンスド・フィギュア

Hello-goodbye setting
Double triangles
Poussette, strathspey time
The Knot
The Rondel
Corner chain
The Tournée
Inveran reels

以上、みんなが知っているフィギュアばかりで、驚くこともないのではなからうか？ Happy dancing!

("Dancing from a briefing" by David Wilson, from TACTALK, Vol.23, No.2, September 1998) ■

楽しくなければダンシングでない

(ウィルソン・ニコル)

私はトロント支部ニューズレターに載ったミス・ミリガンの手紙(1961年のニュージーランドのサマースクールあて)を読んだが、その内容は現在にもあてはまるものである。ミリガンは、

「happinessであることが第一であり、楽しくなければ皆さんのダンシングは、どこかが間違っているのです」といっている。そして、

「RSCDSはダンシングの標準化を成しとげましたが、私たちがSCDを再興させようとした当時、そのやり方はてんでにばらばら、ひどいものでした。標準化の目的は、世界中でおなじやり方で踊られるようにすること、どこに行っても仲間になれるように、ということでした」

「私たちはパブロワにはなれませんが、踊りを楽しむことはできます。でも、テクニクすなわちダンシングではありません。必要なのは他のダンサーを思いやる心構え、よいフレージング、音楽を愛することなのです」

そっけない態度、あら捜しと、ダンシングにお

ける思いやりとの間にははっきりした違いがある。あら捜し人はいない。いつも正しいほうにしようではないか。("Editorial-Enjoyment" by Wilson Nicol, from The Reel No.253, Sep - Nov 2005, by the courtesy of the RSCDS London) ■

もう一つのロイヤル・イベント

(ビル・クレメント)

1978年6月、女王即位25年を記念して、エジンバラのキングズ劇場で“Jubilee Salute”というスコティッシュ・コンサートが企画された。毎年のエジンバラ・フェスティバルでランチが公演している「エジンバラ・ファンシー」に似かよった内容だった。ランチとの調整役はイアン・ギルモアとミータ・フォレスト、ほかにもよそから大勢のアーチストが加わるようになっていた。

この公演は陛下とフィリップ殿下もご観覧されるとのことで、イアン・ギルモアからわたしにパイプをやってほしいとの依頼があった。しかし、リハーサルと公演で1週間、ダンフリーズとエジンバラ片道120キロを毎晩往復しなければならぬ。ダンス伴奏に手慣れた別のパイパーを紹介することにして、わたしはこの話を辞退した。エジンバラ市警察のパイプ指揮者、ジョージ・ラムズデンがパイプ伴奏をよろこんで引き受けてくれた。わたしにはかれが最適だとわかっていた。

ところが、陛下来訪を間近にしたとき、ジョージ・ラムズデンは警部補に昇進し、キングズ劇場にいつでも行けるという状況ではなくなってしまった。ジョージはダンシングで演奏してくれる別のパイパーを指名した。そのパイパーにスコティッシュ・カントリー・ダンシングで演奏した経験は皆無だったが、リハーサルを重ねるごとにうまくなっている、すべて順調と聞いた。

第1回公演が予定された月曜日、電話をとったわたしの驚きを想像してほしい。「ダンシング伴奏のため、今晚6.30pmまでにキングズ劇場に来てほしい」というのだ。前日の日曜日、ドレス・リハーサルのあと、そのパイパーをクビにせざるをえなかったというのである。かれは酒のにおいをぶんぶんさせ、とんでもないところでテンポを変え、しかも演奏するダンシング小節数はめちゃくちゃというのが、わたしが聞いた理由だった。

このショウのプロデューサー、アルバート・ブラックは何年も「エジンバラ・ファンシー」をプロデュースしている男で、わたしが劇場に着くと、ステージに登場すべきときはいつか、どこに位置するか、いつ・どこから退場するかを書いたシナリオを渡してくれた。演奏するダンスについてしゃべるとき、わたしにスポットがあてられるとも

言われた。

わたしの名前はプログラムに載っていなかったので、開幕前にパイパーの変更がアナウンスされた。初日のショーはうまく行き、陛下とフィリップ殿下は翌日、火曜の晩にお見えになると聞かされた。

火曜日の公演の直後、何人かがステージにのり、陛下と殿下のご登壇を待つように言われた。

陛下には多忙な1日の終わりにあたる。陛下はいささかお疲れ気味のように感じられた。わたしは再び「The Royal Scottish Country Dance Societyのパイパー、ウィリアム・クレメントです」と紹介された。RSCDS からそんな役目を仰せつかったことは一度もなかったけれどね。

陛下はリハーサルなしでダンサーのために演奏したことをお聞きになっていた。

「とても難しいことをなさったのね」と微笑みながらおっしゃられた。

「わたしはずっとスコティッシュ・カンントリー・ダンシングで演奏していますし、ダンサーもわたしのパイプに慣れておりますので」

フィリップ殿下は「あなたはダンシング演奏専門で、ほかでは演奏しない？」

「ウォーレス・ホール高等専門学校で教師をつとめておりますが、課外活動で生徒のダンシングとパイプ・バンドを受け持っております。二つとも先日メドウバンク・スタジアムで行なわれたナショナル・ユース・フェスティバルのコンペティションに出ました」陛下・殿下もご臨席されたフェスティバルである。

殿下は「あなたはハイランド・ゲームズのコンペティションに出たことがあるのですか？ 長いことあなたの名前を聞いていないけれど」続けて「ああそうか、出れば勝ちということになって、おもしろくないわけだ」

「殿下も冗談がお上手ですね」とわたしは答えた。

フィリップ殿下は、ランチの連中が休憩時間に「ふつうのパイパーやフィドラーとは違って、ダンシングで演奏するにはそれなりに努力しなければだめだよ」と話しているのを小耳にはさんでいた。

このコンサートはわたしにとってもう一つの忘れ得ぬロイヤル・イベントであり、エジンバラ・ランチとイアン・ギルモアに感謝している。毎晩エジンバラまで往復したのかって？ そのとおりだ。わたしのパイプで踊ったダンスは The Sixteensome Reel, Honour the Piper と McNeil of Barra だった。

(“Another Edinburgh Branch Story – JUBILEE SALUTE – The King’s Theatre, Edinburgh, June 1978” by Bill Clement, from “Dancing Forth” Autumn 2005, by the courtesy of the RSCDS Edinburgh)■

オリエント急行の旅

(ホーン喜美子 カナダ・オンタリオ州 05/10/17)

先週あたりから秋めいてきて、最高 17 度ぐらゐと快適です。東京に地震があったと報道されていますが、被害が出るほどでなかったのでしょうか。SCD ファミリーの皆さんのうえに思いを寄せています。

東京ランチの会誌に、なにか“お喋り”感覚の短い文を送るつもりでしたが、ワールド・デイ・ダンスの記事の邦訳を発表された直後なので、いずれまた時期を見て、スコットランドで気がついたことなどをお知らせします。

オリエント急行は、さすが卓越旅行といわれているだけに、すべてに満足しました。伝統的な長距離旅行に代る短距離旅行が多い中で、年一度という最長のパリ・イスタンブール運行を選び、1年半前に予約していました。途中では、ブダペストとブカレストで豪華ホテルに宿泊のほか、ルーマニアの山地とブルガリアのヴァーナンでも観光のために停車しました。列車では3泊。なによりも、車上でのサービスは最高、食事は out of this world と表現したいフレンチ料理。車内はオリジナルの木寄せやガラスのデコウを使い、木のパネルなどは弦楽器の木目のような感じ、超エレガントで想像以上に豪華な雰囲気を感じました。

いちばんの印象は、他の乗客、車上の従業員と停車各地で歓迎してくれた人たちとの接触でした。自家用ジェット機で来た人、モナコにヨットを停泊させているという人、毎年の乗客なども混じっていましたが、階級などをぜんぜん意識することなく、友好的に会話をかわしていました。というのも約半分近くが米国人で、それが影響していたものかも。オブノクシャス（不快な）のアメリカ人と嫌われる反面、いい点もあり、今回の乗客はすべて社交術を心得た連中ばかりと見受けました。毎晩の夕食は正装とあり、主人はキルト着用で94名の乗客中1人なので、結構人気がありました。日本からも2組のご夫婦がいらしてましたが、他の乗客と混ざることにはせず、私も自己紹介してお話するように努めました。最後までお名前もうかがえませんでした。

各停車駅にはバンド演奏が待っていて、赤絨毯で特賓レセプション室で市長の歓迎、伝統的歓迎をしてくれたり、民族舞踊で出迎えたり、花や贈り物など、列車出発のときは音楽やダンスをプラットフォームでして、乗客も加わるなどの感激一杯の経験でした。観光も各国語のガイドを準備していて、日本語の現地人のガイドが4名が案内していました。どの地のガイドにも言葉をかけてみましたが、みなちゃんとした日本語なので驚きました。

アガサ・クリスティー・エラ(時代)の再現と表した人もいましたが、そんなセンチメンタルな要

素も含め、現代で体験できる最高サービスの旅というのが、私の感想でした。最前の A 号車が例の映画撮影用に利用された、とイタリー人のスチュワードが指摘してくれました。おかげで 3 lbs (1.3 kg) も増量してしまい、いま減量に苦労しています。

この手紙の目的が最後になってしまいました。この 11 月 26 日 (土)、トロントのロイヤル・ヨーク・ホテルでセント・アンドリュース協会とカナダ第 48 連隊共催のセント・アンドリュース・ボールが行なわれますが、日本の SCD ファミリーの皆さん、どうぞお越しください。RSCDS の AGM など比較にならない豪華さ、とスコットランドからの参加者が言っていました。ダンス後、朝の 2 時ごろから見る Beating Retreat はスコットランドでも軍隊儀式か、王室儀式以外にはめったに見られません。詳しくはお問合わせください。長年参加しています。会場のホテルは王室メンバーも利用の一流ですが、この催しのための特別料金を提供していて、われわれも当日宿泊します。前後に各クラブのダンスにもご参加いただけるでしょう。ではまた、連絡します■

グループ行事案内

与野スコティッシュ・カントリー・ダンス・クラブ

Xmas Party

12 月 6 日 (火) 1-4 ¥1,000

与野本町コミュニティセンター

(与野本町駅 2 分)

丸山順子 048-854-2908

東京スコットランドダンスを楽しむ会

2005 Year End Ball

12 月 11 日 (日) 1-5 ¥5,000

日本出版クラブ会館 (飯田橋駅 8 分)

福島チイ子 03-3330-2845

Toronto Scottish Country Dance Association

The 43rd Annual Tartan Ball

2006 年 2 月 18 日 (土) 6 - 深夜

91 カナダ・ドル (¥9,500)

音楽 Bobby Brown & The Scottish Accent

フェアモント・ロイヤル・ヨーク・ホテル

(カナダ・トロント)

ホーン喜美子

Tel +1-905-934-0329

Fax +1-905-934-8311

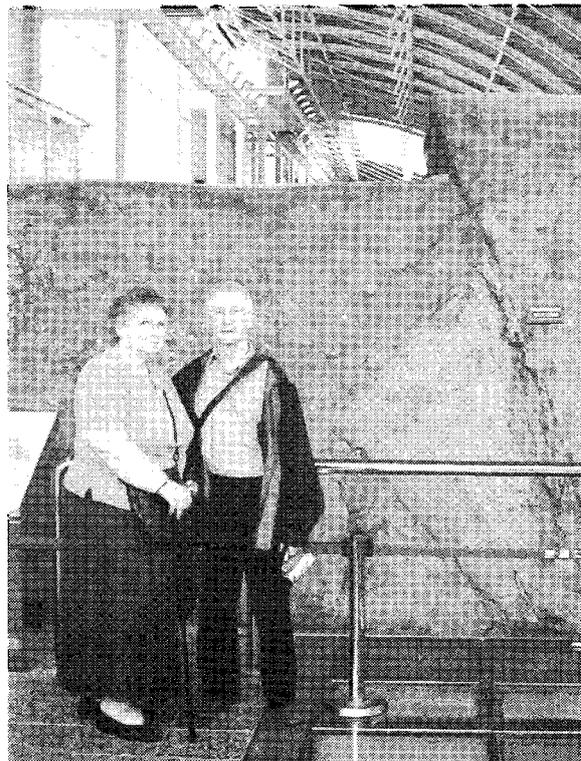
e-mail: japanese.services@on.aibn.com

(上記はセント・アンドリュース・ボール

とは別の催しです)

次号は 2 月発行予定。2 月-5 月のお知らせ乞う

マルカム&ヘレン・ブラウン再来日



淡路島・野島断層をバックに

10 月上旬、ブラウン夫妻が来日しました。今回は南アフリカで、ついでメルボルンのウィンタースクールで指導後日本に立寄ったもので、日野市でダンス会を楽しんだほかは、関西を観光したあと 10 月 12 日に成田から帰国しました。

Book 45 ダンスの DVD はオーストラリアで収録し、英国帰着後編集に入るといことです■

ランチ・ショップから

(Tom Toriyama)

RSCDS 商品の申込み期間、諸事情により 1 週間にも満たず、「申込もうと思ったら締切りを過ぎていた」という会員からの苦情が多く寄せられ、申しわけありません。次号ランチレターで Book 45 ダンスの DVD、Book 6, 15 & 28 の CD をご紹介いたしますが、そのときにご注文しそなたの品物をあらためてご注文ください。

前号のランチレターでご紹介した RSCDS マニュアルは全世界から本部に注文が集中し、在庫切れ・増刷となったため、本稿出稿時いまだ到着しておりません。いましばらくお待ちください。ミュリアル・ジョンストン CD (ミュリアルに直接注文) もミュリアル夫妻がテキサスからカナダ・ブリティッシュ・コロンビアに 8 月末転居し、そのときの混乱でご送付が遅れました■